

1 単元名 「世界恐慌と日本の中国侵略」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容の(5)「近現代の日本と世界」の中項目カの部分にあたる。(5)の大項目では、19世紀後半の開国、明治維新以降の我が国の近現代の歴史について、世界の動きとのかかわりの中で学習する。本単元では「昭和の初期から第二次世界大戦終結までの政治・外交・経済・社会の動きを中国などアジア諸国との関連、欧米諸国の動きに着目させて、経済の世界的な混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させるとともに、戦時下の国民の生活に着目させる。また、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと」について取り扱う。世界恐慌後各国が様々な対応をしていくなかで、国際社会に複雑な対立関係が起こってくる。日本においては、経済的混乱と社会不安の広がりを背景に軍部が台頭し、満州事変、日中戦争、太平洋戦争へとという戦争過程をたどっていく。これらの戦争の時代の中で、多くの国民の多くの命が犠牲となるとともに、国民は苦しい生活を余儀なくされ、朝鮮や台湾、中国や東南アジアの人々に対しても、さまざまな苦痛を与える結果となった。

この激動の時代のできごとを題材に、日本のとった行動に対して、さまざまな意見を出し合う学習を行うことで、歴史に対する多面的・多角的な見方を育てていきたい。また、世界的視野から事象の因果関係を把握させることにより歴史の大きな流れを理解させたい。

(2) 生徒の実態

(3) 指導観

教科書や資料集などさまざまな資料をもとに自分の考えをまとめ、お互いに意見交換をし合う学習活動を通して、世界各国との関わりの中で大きな歴史の流れをつかませるとともに、歴史に対する多面的・多角的な見方ができるようにしていきたい。

本単元では、世界恐慌に始まった各国の行き詰まりに対し、軍事力を背景とした急進的なファシズムの実行によって解決しようとした国が現れたことをドイツの例で説明し、それが第二次世界大戦がはじまった要因の一つになったことをおさえさせたい。またそのような世界情勢にあつて日本でも経済不振、政治不信により国家主義運動が高まっていったこと、そして経済復興のため大東亜共栄圏をかかげ戦争へと踏み切っていったことを知り、この世界をまきこむ戦争が何を求めて起こったことなのかを考えさせ、領土とそれに伴う資源・経済圏の重要性に気付かせたい。

またドイツや日本での軍国主義化の動きを簡単に批判するだけでなく、世界的な経済の混乱と貧困は、現在においても戦争の大きな要因となっていることを理解させ、諸戦争の経過をたどることで戦争の惨禍と国民の受けた戦禍を知り、平和な世界を築くことの重要性を改めて認識させる。その上で今ある平和の維持や、国際平和を実現していくために必要なこと、我々にできることは何かということを考えさせていきたい。

3 単元の目標

- ・世界恐慌について，原因や影響に関心を持ち，現代の経済状況などと比較するなど，意欲的に追究しようとする。〈社会事象への関心・意欲・態度〉
- ・日本の大陸進出などについて，自分たちと違う世代の意見に関心を持ち，聞く態度を身に付けようとする。〈社会事象への関心・意欲・態度〉
- ・世界恐慌の起こった原因を，資本主義経済のしくみの中から考えることができる。
〈社会的な思考・判断・表現〉
- ・日本の軍国主義化について，現代的視点からの批判をしつつ，その原因や理由について考え，自分の意見を述べることができる。〈社会的な思考・判断・表現〉
- ・当時の日本の新聞などから，軍部の台頭を読み取っている。〈資料活用の技能〉
- ・「日中戦争の広がり」などを用いて，戦争の拡大を読み取ることができる。〈資料活用の技能〉
- ・世界恐慌からファシズムの台頭までの流れを，簡単にまとめることができる。
〈社会事象についての知識・理解〉
- ・日本における軍部の台頭までの流れを，簡単にまとめることができる。
〈社会事象についての知識・理解〉

4 指導計画（4時間扱い）

過程	時配	目標	学習活動	評価規準
見出す	1/4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌について，原因や影響に関心を持ち，現代の経済状況などと比較するなど，意欲的に追究しようとする。（関心・意欲・態度） ・世界恐慌の起こった原因を，資本主義経済のしくみの中から考えることができる。 〈思考・判断・表現〉 ・世界恐慌の概要と欧米諸国の対応を各国別に理解することができる。 〈知識・理解〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌の概要と，欧米諸国の対応について理解する。 ・世界恐慌への対応策をランキング形式で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌の概要と欧米諸国の対応を各国別に理解している。 〈知識・理解〉 ・資本主義経済のしくみを，現代と比較して考え，自分の意見を述べている。 〈思考・判断・表現〉
調べ	2/4	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌からファシズムの台頭までの流れを，簡単に 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリアとドイツに台頭してきたファシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシズムの問題点を，現代の社会や生活と関連さ

過程	時配	目標	学習活動	評価規準
る		まとめることができる。 (知識・理解)	ズムの実態について理解する。 ・日本の政治の流れを、世界の動きと関連させながら理解する。	せて、考えようとする態度を身に付けている。 (関心・意欲・態度) ・世界の動きと関連させながら、日本の政治の流れをまとめている。 (知識・理解)
深める	3/4	・当時の日本の新聞などから、軍部の台頭を読み取ることができる。 (資料活用・技能) ・日本における軍部の台頭までの流れを、簡単にまとめることができる。 (知識・理解) ・日本の軍国主義化について、現代的視点からの批判をし	・満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解する。 ・国民の困窮や軍部の主張などについて具体的に触れ、当時の日本の状況を考える。	・満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解している。 (知識・理解) ・当時の日本の新聞などから、軍部の台頭を読み取っている。 (資料活用・技能) ・軍部の主張や国民の生活を具体的に調べ、当時の状況
		つつ、その原因や理由について考え、自分の意見を述べることができる。 (思考・判断・表現)		から、日本の取るべき進路について考え、自分の意見を述べている。 (思考・判断・表現)
まとめる	4/4	・「日中戦争の広がり」などを用いて、戦争の拡大を読み取ることができる。 (資料活用・技能) ・日本の大陸進出などについて、自分たちと違う世代の意見に関心を持ち、聞く態度を身に付けようとする。 (関心・意欲・態度)	・日本の中国侵略の実態とそれに対する中国国民の動きを理解する。 ・当時の日本の社会や国民生活の状況を通して、国民の思いや考えを推察する。	・当時の日本の状況と、中国の民衆の立場を理解し、公正に判断しようとする態度を身に付けている。 (関心・意欲・態度) ・国民生活がしだいに統制されていった状況を理解している。 (知識・理解)

5 本時の指導

(1) 目標

- ・世界恐慌について、原因や影響に関心を持ち、現代の経済状況などと比較するなど、意欲的に追究しようとする。〈社会事象への関心・意欲・態度〉

- ・世界恐慌の起こった原因を，資本主義経済のしくみの中から考えることができる。
〈社会的な思考・判断・表現〉
- ・世界恐慌の概要と欧米諸国の対応を各国別に理解することができる。
〈社会事象についての知識・理解〉

(2) 展開

時配	学習活動と学習内容	・指導支援 ○評価	資料
5	1 「パンの配給を待つ人々」の写真を見て,アメリカの世界恐慌前後の様子をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・看板と行列の対比に注目させ,アメリカの世界恐慌前後のイメージを持たせる。 ・生徒と対話しながら,世界恐慌の概略を説明する。 ・倒産や失業者の増加など深刻な問題であったことに気づかせる。 ○世界恐慌当時のアメリカの様子をつかむことができたか。 (知識・理解) ○世界恐慌の深刻さがわかったか。 (関心・意欲・態度)	パワーポイント
7	2 世界恐慌の概略について理解する。 ・いつ(きっかけ) ・どこで ・状況 ・原因	<ul style="list-style-type: none"> ・原因については,資本主義経済における「生産過剰」が原因の一つであったこと程度にとどめる。 ・不景気とはどのような状況のことをいうのか確認する。 ・世界経済の中心であったアメリカで生じたため世界中に広がったことに気づかせる。 ○世界恐慌のきっかけとその概要を理解しているか。(知識・理解)	教科書資料集
3	3 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">世界恐慌に対して,欧米諸国はどのような政策をとったのだろう</div>		
5	4 経済不況に対し,どのような対応をしたのか予想する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生産過剰」の状態を解消するためにはどうすればよいかという視点で予想させる。 ○自分なりの意見を考えようとしているか。(関心・意欲・態度)	
15	5 「モノ」が売れるようにするためにはどうすればよいのかを話し	<ul style="list-style-type: none"> ・不況に対する対応策をランキング形式で考えさせ,その理由も書かせる。 	ワークシート

	<p>合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の植民地にどんどんモノを売り込む ・労働者の給料を増やし,モノがたくさん買えるようにする。 ・外国からの輸入を制限し,自国のモノが売れるようにする。 ・生産過剰を抑え,モノの生産量を少なくする。 ・政府が民間企業で生産したものをどんどん買う。 	<p>○資本主義経済のしくみを,現代と比較して考え,自分の意見を述べることができる。(思考・判断・表現)</p>	
15	<p>6 世界恐慌に対するアメリカとイギリス・フランスの政策について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ…ニューディール政策 ・イギリス、フランス…ブロック経済 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの国の位置を最初に確認する。 ・机間指導により,支援が必要な生徒を中心に個別指導にあたる。 ・ソ連は社会主義であったため,恐慌の影響を受けなかったことを説明する。 ・ブロック経済政策について,植民地の少なかった国はどのような政策をとったのか,疑問を投げかけ,次時への学習につなげる。 <p>○教科書や資料集を活用して調べ,わかりやすくまとめることができたか。(資料活用の技能)</p> <p>○欧米諸国の対応を各国別に理解することができたか。(知識・理解)</p>	教科書資料集
<p>☆アメリカ <ニューディール政策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に公共事業をおこす。 ・農業や工業の生産を調整する。 ・失業者を助ける。 ・労働組合を保護する。 <p>☆イギリス・フランス <ブロック経済></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本国と植民地との関係を密接にし、貿易を拡大する。 ・本国以外の国の商品に対する関税を高くする。 			

<板書計画>

◎世界恐慌とブロック経済

世界恐慌に対して欧米諸国はどのような政策をとったのだろうか

○世界恐慌

いつ 1929年10月24日

どこで アメリカ ニューヨーク

状況 株価が大暴落

原因

↓

世界中に不況が広がる

☆アメリカ<ニューディール政策>

ルーズベルト大統領

・積極的に公共事業をおこす ・農業や工業の生産を調整する
・失業者を助ける ・労働組合を保護する

☆イギリス・フランス<ブロック経済>

・本国と植民地との関係を密接にし、貿易を拡大する
・本国以外の国の商品に対する関税を高くする